

- 1 題材名 拍にのってリズムを感じ取ろう
 教材名 表現（器楽） 「ゆかいな木きん」
 （音楽づくり） 「手拍子でリズム」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現（2）器楽	ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。 イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり ウ (ア) 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能 (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
(3) 音楽づくり	ア (イ) 音を音楽へ構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。 イ (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 ウ (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
〔共通事項〕 (1) ア	拍の流れ、リズム、旋律、反復、変化 イ 八分音符、四分音符 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:反復、変化 ・取り扱う音符、休符、記号や用語:四分音符、八分音符

(1) 題材観

本題材では、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもって演奏したり、拍やまとまりのあるリズムが生み出す面白さを感じ取りながら、思いや意図をもって音楽をつくったりすることをねらいとしている。旋律のまとまりを生かして表現することや、音楽の仕組みを用いて、試行錯誤をしながらまとまりのあるリズムをつくっていく面白さに気付かせていきたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

器楽で取り扱う「ゆかいな木きん」は、主な旋律のほとんどが8分音符の軽快なリズムで構成されており、音型も似ていることから2拍子の軽快な拍にのって楽しく歌ったり、演奏したりしやすい。それぞれのパートが反復や変化を使った旋律となっており、旋律のまとまりを意識させた上で拍にのって合奏することの楽しさを感じ取らせていきたい。

音楽づくりでは、運動会などでも親しみがある、「三三七拍子」のリズムを提示し、「ゆかいな木きん」の学習を生かしながら同じリズムを反復させたり、途中で変化させたりすることのよさに気付かせる。その仕組みを用いて、4分音符と8分音符を組み合わせでつくったリズムを反復させたり、変化させたりして、4小節のまとまりのあるリズムをつくっていく。音符の組合せ方やつなげ方の違いによるリズムの面白さを味わわせていきたい。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】

②既習を生かして学びを深める授業づくり

児童は2年生の時に音楽を形づくっている要素である反復を取り入れたリズムの組合せを考えた音楽づくりの経験がある。本題材では、昨年の経験を生かし、反復と変化を使ってまとまりのあるリズムをつくることのよさを感じ取りながら、音楽づくりを行う。

3年生で身に付けたことを生かして、5年生では、打楽器の音色の組合せやリズムの重ね方を工夫して、リズムアンサンブルをつくる。反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みの生かし方により、リズムや音色の重ね方やつなげ方の特徴が生み出すよさや面白さに気付かせていく。さらに、中学1年生では、自分でつくったリズムを友達がつくったリズムと重ねる面白さを感じ取らせたり、強弱などを工夫することにより、曲想が変化する面白さを感じ取らせたりしていく。

【視点2】

②個別最適な学びと協働的な学びの一体化

本題材では教科書のデジタルコンテンツを活用して学習を進めていく。小さなまとまりの反復に続けて大きなまとまりで変化するよう、自由に4分音符・8分音符が入れられるように設定されたものを使用する。何度も試すことができ、また、つくったリズムが手拍子の音で再生されるため、表現することが難しい児童にとっても、どのようなリズムになったのかが明確になる。そのため、児童は、つくったリズムを聴いて確かめながら、気に入ったリズムになるように何度も音符を入れ替え、試行錯誤してつくることができる。

その際、児童がつくったリズムを全体に共有して、それぞれのリズムが生み出すよさに気付かせることで個々のリズムづくりに生かすようにしていきたい。また、教師が「どうしてこのリズムにしたのか」「このリズムの繰り返しからどんな感じがするか」などと、問いかけることで、児童の思いや意図とつくっている音楽との関わりを明確にしながら取り組むことができる考える。

【視点3】評価の在り方

本時では、ギガタブでつくったリズム及び、そのリズムをどのような思いでつくったのかをワークシートに記述させ、児童の思いや意図を見取るようにする。ポイントを示しながら工夫したことを書くようにし、児童の思いや意図とつくった音楽との関わりを考えられるようにしたい。

3 題材の目標

- 拍子やリズムの特徴などと曲想の関わりに気付き、拍にのって表現する技能や、反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくる技能を身に付ける。（知識及び技能）
- 拍子やリズム、旋律の特徴を捉えた表現や、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、リズムの組合せを工夫し、どのように反復と変化を生かしたまとまりのあるリズムをつくるかについて思いや意図をもつ。（思考力、判断力、表現力等）
- 拍子やリズムの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取り、それらを生かして表現したり、友だちと協働してつなげたりする学習に進んで取り組もうとしている。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 拍子やリズム、旋律と曲想との関わりについて気付いている。 ② 知技 リズムのつなぎ方の特徴に気付く、反復や変化を生かしてまとまりのあるリズムをつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。 ③ 技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。	① リズムの反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、リズムの組合せを工夫し、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ② 拍子やリズム、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	① 拍子やリズムの特徴を生かして音楽をつくる活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの活動に取り組もうとしている。 ② 拍子やリズム、旋律と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）（本時2/5）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎ 拍を感じ取りながら歌う。						
第一次	第1時	○拍の流れを感じ取りながら「ゆかいな木きん」を歌う。 ・楽譜を見ながら指導用CDを聴き、感じたことや気付いたことを発表し合う。 ・拍にのって聴いたり、歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌ったりする。 ○音楽の仕組みを生かしたリズム遊びをする。 ☆〔反復・変化・拍の流れ・旋律〕	○主旋律の特徴に着目できるよう、拡大楽譜を提示し、指し示す。 ・反復と変化で構成されていることに気付く。 【視点1】 ○反復と変化を生かしたリズム遊びを通してそれぞれのよさを実感させる。	①知 （発言）		
◎反復と変化を使ってまとまりのあるリズムをつくる。						
第二次	第2時（本時）	○反復と変化を使ってまとまりのあるリズムをつくる。 ・反復と変化を使って4小節のリズムをつくる。 ☆〔反復・変化・リズム・拍の流れ〕	○音楽の仕組みに気付くよう、三三七拍子を例示する。 ○何度も試しながらリズムづくりができるように、ギガタブを活用する。 ・反復と変化を使って、自分が気に入ったリズムをつくっている。 【視点2】 【視点3】	②知技 （記述・発言）	①（記述・発言・聴取）	↓

	第3時	○リズムをつなげてグループの音楽をつくる。 ・つくったリズムをどのようにつなげるか考えてグループの音楽をつくる。 ☆〔反復・変化・リズム・拍の流れ〕	○つなげ方の例を示す。 ・どのようにつなげたら、自分たちが気に入ったリズムになるか考えて試行錯誤を重ねる。			① (観察・記述・聴取)
◎互いの音を聴きながら、拍にのって演奏する。						
第三次	第4時	○音楽の仕組みを感じ取って、主な旋律を演奏する。 ・鍵盤ハーモニカの旋律と木琴の旋律が反復と変化が使われていることや呼びかけと答えになっていることを意識して演奏する。 ○各パートのリズムの違いを感じ取って、演奏の仕方を工夫する。	○鍵盤ハーモニカと木琴の旋律が呼びかけと答えになっていることに着目できるよう、交互唱を取り入れる。 ・旋律のまとまりを意識して演奏している。		② (発言・聴取)	↓
	第5時	○互いの音を聴き合いながら、拍にのって演奏を楽しむ。 ・担当する楽器を決めて、自分のパートを練習する。	○2拍子の拍にのって演奏するよう助言する。 ○自分のパートの役割を理解し、全体の音量のバランスも意識するように促す。 ・旋律のまとまりを意識し、互いの音を聴き合って演奏している。	③ 技 (演奏聴取)		

6 本時の指導 (2/5)

(1) 本時の目標 音の組合せやつなげ方について考えながら、反復や変化を使って、まとまりのあるリズムをつくる。

(2) 本時の展開

学習内容 ・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕		○教師の働きかけ・目指す児童(生徒)の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 リズム遊びをする。 ・反復と変化を使ったリズムリレーを行う。		○反復カードと変化カードを提示してリズムリレーを通して音楽の仕組みを確認するようにする。
2 三三七拍子から音楽の仕組みに気づき、本時の目標を知る。		○活動に興味をもてるように、運動会で行った三三七拍子の様子を映像で見せる。 ○三三七拍子の面白さについて問いかける。 ○音楽の仕組みやそのよさに気付くように、既習曲(ゆかいな木琴)を示す。
くりかえしや変化を使ってまとまりのあるリズムをつくろう		
3 繰り返しと変化を使って4小節分のまとまりのあるリズムをつくる。 ・ギガタブを使ってリズムの組合せを考える。 ・自分の思いに合うようにリズムづくりを行う。		○ギガタブを用いてリズムの作り方を説明する。 ○随時、児童のリズムを取り上げてモニターで全体に共有し、よさや面白さについて価値付けする。

C 1 「小さいまとまりは4分音符のみをくりかえして、大きいまとまりは8分音符をたくさん使って変化をつけたよ」 C 2 「小さいまとまりのくりかえしを、大きいまとまりの中にも使ってみたらリズムが楽しくなったよ」 C 3 「〇〇くんのリズムのここがいいと思ったから使ってみたら、もっとよくなったよ」 ☆ [リズム、拍の流れ、反復、変化]	○つくったリズムは手で打って確かめるよう助言する。 ○どうしてこのリズムを選んだのか問いかけ、思考を促す。 ○リズムよく演奏できない児童については教師が手本を見せて模倣するよう促す。 【視点2②】
4 3人組で作品を伝え合う。 ・3人組になってお互いの作品を発表し合う。 ・発表者は工夫したことを伝える。 ・聴き手は、相手のリズムのよいところを伝えるようにする。 ・何人かの友達と発表し合う。 5 つくった作品についてワークシートに記録する。 ・ギガタブでつくったリズムについて、どのような思いでつくったのかを記述する。	○聴き手にギガタブの画面を見せながら発表することを伝える。 ○書き方の例をモニターに提示し、キーワードを示したワークシートを配布する。 【視点③】
	◇リズムの反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、リズムの組合せを工夫し、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (思考・判断・表現) 〈ワークシート〉 ◇リズムのつなぎ方の特徴に気付き、反復や変化を生かしてまとまりのあるリズムをつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。 (知識・技能) 〈ワークシート〉
6 全体共有をする。 ・何人かの児童が発表する。 ・リズムのよさについて感想を伝える。 7 次回の予定を知る。	○教師の問いかけにより、児童の思いとつくった音楽との関わりを明確にする。 ○どんなところが面白いのか、具体的に伝える。